

事例2 小学校入学に向けた家庭教育を地域で応援する

小学校へ入学すると、保育所や幼稚園とは教育方法や生活が大きく異なります。こうした変化に対応できない子供も増えていると言われており、入学前に家庭において生活習慣や集団生活の基礎になることを身に付けておくなど、家庭での準備の重要さが改めてクローズアップされています。

このような状況の中、小学校入学の不安を解消し、入学に向けた準備を家庭で始めるための支援の取組が始まっています。

大田区教育委員会 家庭教育学習会 〈学校デビュー応援プログラム〉 「小学校ってどんなところ？ そうだ！ 親子で学校へ行こう！」

■ 事業の概要

大田区教育委員会では、平成22年度から、小学校入学を控えた子供と保護者を対象に、①小学校生活を見通した家庭でのサポートについて学ぶ、②子供たちを共に育てる環境をつくる ことを目的として、「家庭教育学習会／学校デビュー応援プログラム」を実施しています。

平成22年度にモデルとして3校で保護者の講座（講演と話し合い）を実施し、その後、実施時期の見直しや「子ども教室」の開催、一時保育の実施など毎年検討と改善を重ねてきました。平成26年度は、7月から8月に区内四つの地域で実施され、定員を超える申込みがあるほど好評でした。また冬には区内全域を対象にしたシンポジウムも予定されています。

平成26年度のこの事業の1回として、8月26日に小池小学校で開催された講座を紹介します。

■ プログラムの内容 —保護者と子供、それぞれが“小学校”を体験する—

プログラムは、保護者向けの「大人の学習会」と年長児対象の「子ども教室」が、並行して別会場でそれぞれに実施されます。また、年長以下の子供を預かる保育室も併設されています。

9 保護者向け「大人の学習会」 —「子供の自立をサポートする」ための半年に—

このプログラムでは、親の役割を「子供の自立をサポートする“コーチ”」と考え、小学校入学に向けて、家庭で子供をサポートする方法について学びます。

最初に会場である小池小学校の校長先生から「子供の成長を家庭で支えるヒントを学んでください」との挨拶の後、同校1学年の担任の先生から、今の1年生の様子や学校生活を通しての子供の様子についてのお話がありました。「入学から5か月、毎日学校に通うことで、いろいろなことを経験し吸収し、体も心も大きく成長します。水に顔を付けられなかった子が上手に泳げるようになり、入学前には自分の名前が読めるようにとお願いしていますが、1学期にはひらがなを覚えて名前が書けるようになりました。今はまず、家庭では、『学校は楽しいよ』と、お子さんを励ましてあげてください。心配や不安は、秋の就学時健診や2月の保護者会の時に相談できます。」と、保護者へのアドバイスを含めたお話でした。



大人の学習会のメインプログラムは講師のお話とグループワークです。「気持ちがあぐっと軽くなる！入学が楽しみになるヒント」というテーマで、NPO法人ハートフルコミュニケーションの講師が進めます。

子供の幸せな自立のために、保護者は何ができるか、これから小学校入学までの半年間、家庭ではどんなサポートができるでしょうか。（講師の話）

学習会の最初の話は、親の役割の変化についてです。親の役割は、子供の成長に伴って変わって変わって、子供たちが楽しい小学校生活を送るために、保護者はどのような役割で子供に接し、入学の準備をすればよいのか、講師と受講者と共に考え学びます。

赤ちゃんの頃は親は「保護する者」であり、できることがほとんどまだない子供に代わって「ヘルプ（手助け）」してあげる役割ですが、子供が自分でできることが増えてきたら、任せて見守る「サポート（支援する）」にシフトします。小学校での本格的な集団生活が始まる今は、親が「コーチ」として、子供の力に気づき、できることは子供に任せて、サポートをしましょう。それが子供自身の力を伸ばす支援になります。

自分でやってみてうまくいけば自信がつき、次へのやる気生まれます。うまくいかなければ自分で考えてやり方を変えるなどしてもう一度やってみます。このプロセスが、子供の「問題を乗り越える力」「解決する力」を育てます。

学校で出会う新しい体験にも失敗を恐れずに自分で考えて解決し乗り越えていくために、今のうちにいろいろなことを任せてみて、この体験をたくさんさせましょう。

いきなり「やりなさい」と言われると戸惑い、押し付けられたようなマイナスの気持ちになってしまいかも知れません。ですから、子供が自分でやってみたいと思うような言葉かけや、子供がやれるような環境を整えることが大切です。（講師の話）

このプログラムでは、講師の話の合間に何度も受講者同士で話をします。例えば「自分の家庭ではこれからの半年で何を任せますか？」ということについて話をすると、「買い物に行かせる。」「着る服を自分で選ばせる。」など、いろいろなアイデアが出ました。

二人組のロールプレイで子供への関わり方、言葉のかけ方について考えるワークなども行われました。

二人一組で親子の会話を体験します。一人は6歳の子供役で「○○ちゃん、嫌い！もう遊ばない！」と言います。もう一人の親役は、それを聞いて浮かんだ言葉を返します。子供役の方はどう感じたでしょうか？次に、子供が言った言葉と同じ言葉を、「○○ちゃん、嫌い・・・もう遊ばない・・・」と、子供の気持ちを理解したいと思いつつ繰り返して言ってみます。今度はどう感じますか？（講師の話）



参加者から「気持ちを受け止めてもらった感じ」と声が上がりました。子供も「受け止めてもらえた」と感じると安心し、興奮した気持ちはスッとおさまり自分が言ったことに気づきます。子供が否定的な言葉を言った時の関わり方について、ロールプレイで実感しながら学びました。

大人の学習会に先輩保護者が参加することの安心感

大人の学習会には会場校とその近隣校のPTAの方々が先輩保護者として参加し、グループでの話し合いに参加します。このことがこれから小学校に上がる親子へのアドバイスや安心につながっています。PTA活動の経験談や、親同士の関係、学校・地域との連携が子供の安心につながっている事例をお話いただき、親自身が周囲との信頼関係をつくることの大切さを伝えていただきました。

講師の方からも、身近な存在である先輩保護者が入ることで参加者は安心でき、プログラムが力強いものになったと評価されました。



小学生みたいにできるかな？ワクワクの「子ども教室」

「子ども教室」は、1年生の教室や特別教室を使用して進めます。今回は図書室です。

指導に当たるのは、区内で活動する子育て支援のNPO法人ネットワークBEARのみなさんと、幼児教育や保育の経験者を中心とした方々です。

挨拶や、きちんと椅子に座ること等を、小学校でするように教わりました。この日は、歌や手遊びの後、トイレットペーパーの芯と折り紙で工作をする「図工の授業」の体験です。先生が作り方を説明するのをみんなよく聞いていて、一度の説明でちゃんと工作が完成しました。次に体育館での「体育の授業」では、マットや平均台を使った簡単な運動遊びをしました。一列に並んだり体育道具をみんなで協力して運ぶことも経験します。最後の振り返りの時間では、学校を探検して気付いたことや感じたことを話し合い、ワクワクドキドキする気持ちを共有しました。先生や友達の話を中心に聞き、自分の気持ちを相手に伝える、自分は楽しくても友達が「イヤ」と言うことはしないなど、小学校での生活の基礎になることを経験できるプログラムでした。



これまでのプログラム参加者（保護者）の声（アンケートから）

- ・校長先生、担任の先生、PTAの方々が身近に感じられてよかった。
- ・PTAの先輩保護者の方が加わってくれたのがとてもよかった。
- ・不安がいろいろとありましたが、PTAの方から実際の小学校生活の話を知ることができ、少し気持ちが楽になりました。
- ・皆、不安に思っていることは同じだと思い安心しました。小学校入学まで時間があるので、子供の自信ややる気が育つよう、コーチしていきたい！と思いました。

様々な組織・団体が協力して実現するプログラム

このプログラムには、開催会場となる小学校、現1年生の担任の先生、大人の学習会の講師やサポートに当たる地域の先輩保護者の方、子供教室を担当する幼児教育の経験者、保育室担当の地域のNPOなど、様々な団体が関わっています。子供の小学校入学では、保護者にとっても幼稚園・保育所より大きな集団との関わりが始まりますが、このプログラムはそうした様々な地域の組織・団体や人々の存在を知る機会にもなっています。今日の参加者もやがては先輩として支援する側として地域で活動してもらえることが期待されます。

小学校入学を支援する取組は、他の区市町村でも実施や試行が始まっています。東京都の「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」では、こうした各種の地域の取組をウェブサイトで順次紹介していきます。また、小学校入学に向けて、家庭で早起き・早寝の生活リズムをつくるための教材を作成し、全ての公立小学校の新1年生保護者に配布しています。

★乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト ウェブサイト
<http://www.nyuyoji-kyoiku-tokyo.jp/>

生活リズムや子供の発達に関する資料等もダウンロードできます。

